



東京湾再生官民連携フォーラム 令和元年度 第2回企画運営委員会

1. 開催日時 令和元年8月2日(金)10:00~12:00
2. 開催場所 スタンダード会議室 虎ノ門SQUARE店
東京都港区虎ノ門1-15-10 名和ビル4階

3. 議事次第

《審議事項》

- (1)東京湾パブリック・アクセス方策検討PT政策提案(案)について
- (2)東京湾の窓PT政策提案(案)について

《報告事項》

- (1)PT活動報告
- (2)CSR-NPO 未来交流会 2019 開催報告
- (3)令和元年度企業・行政等施設見学会について
- (4)令和元年度PT長会議について
- (5)東京湾クリーンアップ大作戦 2019 について
- (6)東京湾再生官民連携フォーラム令和元年度総会について
- (7)その他

4. 出席者(敬称略)

來生委員長、佐々木委員、中村委員、古川委員、岡本委員、岡田委員、妙泉委員、星委員、斉藤委員、工藤委員、田久保委員、木村委員、竹口委員、芝原委員、橋本代理、加藤代理、成川代理、森代理、三上代理、山中代理、仲澤代理、清水代理、邊見代理、白井委員、張能代理、熊切代理、細川(事務局) 27名出席

5. 議事メモ

5-1 開会

(1)事務局確認事項

交代委員の紹介と出席委員の確認、配布資料の確認

(2)開会挨拶(委員長)

おはようございます。本日審議事項2件、いずれも政策提案に関するもので、総会に向けて大分まとまってきた。2件とも地方自治体の政策に大きく関わってくるので、各自治体の委員の議論をお願いする。

5-2 議事

《審議事項》



(1)東京湾パブリック・アクセス方策検討PT政策提案(案)について

【決定事項】

継続審議

【審議説明】

(竹口 PT 長) 資料 1-1-1、1-1-2、を用いて説明

説明の都合上、資料 1-1-2 をご覧ください。(PTでの検討経過)

第一次政策提案の積み残し課題を中心に最終提案としている。第一次提案を簡潔に説明し、最終提案を提示している点ご理解いただきたい。一次提案のポイントは、視点場、ルート、スマートフォンの利用を挙げている。最終提案に向けた検討項目として工場敷地、マンション敷地、船舶の活用を検討した。

①沿岸立地の工場に対して、一定の条件のもとに海辺に通じる敷地を利用させていただけるよう呼びかける。

②マンション敷地への立ち入りは、居住者以外の利用提案がしにくい。

③船舶の利用については乗降施設が必要。コスト面などからアクセス手段としては提案しない。結論としては、マンション敷地の活用である。検討結果を踏まえて、第一次政策提案に溶け込ませて、よりコンパクトでわかりやすい提案をめざした。

資料 1-1-1 をご覧ください。

東京湾へ行く上での現状の課題を整理し直した。3. の東京湾パブリックアクセス方策では、専用アプリの開発、条件付きの工場敷地の活用、ルート上、海に関するポイントの指定などを行う。情報提供の方法は、GPS機能の活用や音声での情報提供、冊子化、「街歩き」ボランティア団体によるガイドの活用があげられる。推進体制は、前回と変えていない。

5. その他の「東京湾において船舶を活用した海洋環境学習」については、東京湾の窓PTでも提案があるので、それによりこの文章は削除してもよい。

【審議経過】

(來生委員長)

第一次政策提案を若干修正するという事であるが、質問、ご意見等がありましたらお願いします。

(古川委員)

内容に関しては、まったく異論はない。指摘が3点ある。

1. 提案 1 ページ目 2. 東京湾へ行く上での課題 ③「海に関する興味や関心を高められない」、④「現状のままでは魅力に欠ける」となっているが、「その結果として第二期行動計画の実施に支障をきたす」まで踏み込んで課題とできないか。東京湾に行きやすくして、その結果様々なことに気づき、東京湾再生の行動につなげて行く。東京湾再生全体の推進に寄与する点から提案したほうが良い。
2. 2 ページ目 4. 推進体制 2 つ目に関しては PT 単独ではなく、「フォーラム全体として協力します」という記載が欲しい。
3. 5. その他、海洋環境学習については、東京湾の窓PTの提案と関係なく(重複したとしても)、その重要性を指摘することから掲載したほうが良い。

(竹口PT長)



1 点目、このような情報システムでどれだけ寄与できるか不安があるが、理想的にはそうあるべきだと思うので検討する。

2 点目、4. 推進体制は、「フォーラム全体」ということで会員の意見照会をして頂く。

3点目、環境学習に関しては、いきなり東京湾再生推進会議に研究を深めていただきたいという程度では、丸投げ感がある。みなさんのご意見を聞いてからで、ということであればこだわらない。

(古川委員)

環境学習については文言をもう少し一般的な言葉に変えたほうが良いのではないかと。東京湾再生推進会議の中に環境学習への働きかけの機能があってしかるべきかと思うが、この場で議論するつもりはない。みなさま方のご意見により議論を進めていただければと思う。

(仲澤代理)

視点場ということで海浜公園、釣り桟橋など理解できたが、民間の工場敷地に行ってどんなことをするのか。

(竹口PT長)

工場立地法の環境緑地帯を活用するイメージである。いくつかの工場にヒアリングをした。結果、工場の保安問題があった。緑地帯は木の根などがあり転ぶ心配がある。また工場敷地内は車両の往来もあり、非常にセンシティブな案件。立地側にとっては厳しい。しかし工場敷地内の一部を市民が使えるようにしたり、工場敷地内の一部分に通路を作って、その先端の岸壁上からアマモの養殖場が見えたりするようにするなど、可能などところもある。可能性の点からこういう記述となった。

(來生委員長)

最大限協力するとあるが、情報の収集とか整理は、PTでかなり実施しているのか。

(竹口PT長)

この議論をする上で地域や歴史を調べている。情報のありかは一通り持っているつもりであるので協力はできる。

(岡田委員)

3. ①の専用アプリを開発し・・・とあるが、どの程度のコストがかかるのか想定しているか。

(竹口PT長)

開発者はエリア限定の開発経験はあるが、東京湾全域の経験はない。少なくとも開発コストは安い。また、コンテンツの内容修正は、修正原稿があればさほどのコストはかからない。1 地点当たり数万円単位程度。

(橋本代理)

推進体制は、行政側は様々な関係部署にまたがっている。このまま推進会議に提出すると、受け取る側はどうしてよいか分からなくなる懸念もある。ご説明頂いた情報、実際に工夫されている内容などとセットで提案されたらよいと思う。

(竹口PT長)

1 点目、モデルコースはどんなものかは、第一次政策提案で参考資料として提示している。

2 点目、ご指摘の通りどういった部署が内容を書くのかは難しい。東京湾関連で情報はあがるが、それは限定的な分野で情報化されていて、市民サイドから見ると不十分である。例えば推進会議のメンバーが中心になってもらいたい、それぞれの自治体では、大きなチームを組まない、



あるいは関連部署でチームを組まないと全体的な情報にならない。ただし街歩きガイドなどの作成経験者に意見を聞けば、ある程度イメージができるだろうと思っている。

(木村委員)

1 点目、基本的に工場や船舶など「難しい」と言ってしまうと、今後の繋がりといった点で残念な方向に向かわないかなと思う。例えば、難しいものであっても京浜工業地帯の企業や自治体は、エコアップの緑地やビオトープの設置、緑道整備などを進めている。その中で海に近づける場所があれば、既存の情報を利用することで、工場と付き合っていれば徐々に良い方向に向いて行くのではないかなと思う。

2 点目、マンションであるが、関心のないマンションの住民に関心をもってもらえるよう、「伝える」といったことも重要と思う。

3 点目、船舶ですが、マリーナやヨット・ボードの人たちにも伝えたほうが良い気がした。東京湾フェリーは時々船上で環境学習プログラムもあるので、そういった情報を利用することもいいのではないかな。小笠原海運、東海汽船などは乗船中に何かアナウンスガイドがあってもよいかかなと思うので、「繋がり」を持っていても良いのではないかなと思う。

(竹口PT長)

市民の利用環境の視点では、工場一般には無理があることは、理解しておいたほうが良い。例えば工場緑地には危険物の立地などがある。それ以外の場所では利用環境がある。典型的な例は、JR 鶴見線海芝浦駅前の社有地の一部を公園化して、市民がだれでも利用可能となっている。

マンション住民にはもっと地域を知ってもらうのが大切で、地域周辺を案内してもらえないかという新住民がいる。システムが出来上がれば十分利用して頂ける。

船舶利用に関しては船舶運用者から、「利用は可能だが、アクセスという形での常設には経済的にも無理がある。」という意見を頂いた。だから環境学習みたいなことをもっと充実させてほしいという提案になっている。情報システムが出来上がればさまざまな事柄について、東京湾に関連してイベントや環境学習など、意味のある情報を入れることも選択肢の一つと思う。

(來生委員長)

政策提案がフォーラムの任務だが、東京湾再生推進会議には文科省はメンバーにはなっていない。ここでの政策提案をどう考えるか、また実践活動的なPTもある。理想的な政策提案、将来のフォーラムの在り方など、いろいろな芽を含んだ議論だと思う。

(事務局)

参考資料1 政策提案のスケジュールの説明。

(竹口PT長)

いつごろまで、会員への意見照会などスケジュールがわかれば教えてください。

(事務局)

資料の(3)、(4)に関連し、8月終わりまでにというイメージだが、フレキシブルな対応で良いと思う。

《審議事項》

(2) 東京湾の窓PT政策提案(案)について

【決定事項】



継続審議

【審議説明】

(芝原PT長)資料 1-2 を用いて説明

湾岸には野鳥観察や干潟学習、水族館、漁業を含む歴史文化を市民に紹介する博物館や観察施設などの東京湾に関連する施設があり、これを活用した提案をしたい。〈1〉～〈4〉までが提案である。「東京湾の窓施設」はさまざまな機能を持ち、活動の拠点となりうる東京湾関連施設を、「東京湾の窓施設」としている。施設の中には、学芸員がいる、専門のスタッフがいる施設で、プログラムを提供する施設を東京湾の施設とし、運営は各自治体の基で行われている。それぞれ年間数万～数十万の利用があり、全体で 100 万人を超える人が施設を利用しているが、それぞれの施設、施設職員、行政機関など、関係者が枠組みを超えて「東京湾の窓」施設を活用して社会的存在意義をより一層高めて行く必要がある。

〈1〉教育分野との連携

「東京湾の窓」施設は体験的教育活動を展開しているので、これらを活かして東京湾の保全を担う人材育成に資することができる。そのためには教育分野の連携が重要であり、東京湾再生推進会議での「海洋教育人材育成分科会の設置」、「文部科学省の参加」を要望する。

〈2〉「東京湾の窓施設」に関連する人材のスキルアップ強化

施設職員や自治体の施設担当者が、東京湾の自然、地域との関わりの歴史と現状、施設の機能や役割について学び、共有することが重要である。東京湾の全体の特性について広い視野を持つことによって社会貢献につなげることができる。施設職員の解説や実演のスキルアップ、来訪者のニーズに応えるための研修の実施や施設の機能強化への支援を要望する。

〈3〉「東京湾の窓施設」の横断的活動を活性化するための支援

教育分野における「東京湾の窓施設」の横断的活用を検討して頂きたい。また、横断的取り組みを継続的に進められるよう行政側の支援を要望する。

〈4〉「東京湾の窓施設」の機能の充実と環境保全再生活動への支援

現場体験を安全かつ効率的に行えるよう施設や設備、運営の充実に関して支援をお願いしたい。

(來生委員長)

「支援の要求」と「政策提案」との関係性は難しいと思う。単に、支援では予算の拡大を要求するようにも捉えられる。再生推進会議に対する政策提案をメインとすると各自治体への要請となり、全体的に見えにくい。再生推進会議のメンバーとの関係では、こういった施設の所管官庁は文科省の生涯教育や社会教育の範疇と思われる。現実性の点では、再生推進会議ではなく、文科省への提案のようになる点が気になる。何かお考えがあるのか。

(芝原PT長)

個々の施設の努力だけでは、東京湾全体の再生はできない。既存の施設を「東京湾関連施設」あるいは「東京湾の窓施設」として一つの東京湾と市民を結び付ける拠点として位置付けることが必要で、それが政策提案になると考えている。

(來生委員長)

受け取る側の自治体からご意見はありませんか。

(成川代理)

文科省だと教育関係、学校関係、どこの部署になるのか、小中学校のつながりのイメージか。



(芝原PT長)

学校教育という部分もあるが、東京湾関連施設の多くは社会教育施設なので学校教育に限らない。

(來生委員長)

学校教育と社会教育の両方にまたがる。

(成川代理)

文科省だといくつかの部局に関連している。

(中村委員)

横浜市政策局と横浜国立大学とで「海洋都市横浜うみ協議会」を作っていて、産業振興と市民の協働を目指している。そこでは、横浜市の教育委員会と意見交換をして、小中学校側から何が求められているのか議論している。小学校だと総合教育、中学教育で職場体験などの引き合いが多く、実績もかなり伸びた。沿岸自治体と協働していけば、文科省に限るということではない。「東京湾の窓施設」は、教育の活動をさらにひきいれていくポテンシャルがあるのではないかと思った。

(芝原PT長)

個別の施設と教育委員会との連携はあるが、水族館と博物館といった性質の違う施設同士が、東京湾再生に共通する情報を共有して、それぞれの特性を發揮した、横の繋がりが重要と考えている。東京湾の再生のためにどれだけ施設が活用できるかという視点と考える。個々の自治体の中でとどまっているのではなく、東京湾再生推進会議として施設を活用して行くという取り組みをお願いしたい。

(來生委員長)

窓PTができたので東京湾という視点で、施設レベルでは初めて横の連携できた。横につながることのメリットは大きい。個々の自治体を超えて、横につながる教育・啓発活動のメリットを見出すことができるのではないか。そこを中心に各自治体に呼び掛ける。研修を例にすると一つの自治体が経費負担をする研修より、横につながっていれば研修経費の使用効率をはるかに大きくなる。横の繋がりを評価してくれる点を強調した提案にしたほうがよい。

自分たちの横の活動でこれからもっと充実していかなければならない点と、政策提案とが明確に区別されていない。施設同士の横のつながりによるメリットの叙術は相当ある。それに対し単に支援してくれとなっているので、自治体の横への繋がりをつけるような政策提案にならないかという印象を受けた。

(古川委員)

「支援」という言葉を考えたい。政策提案としては、PT長からの説明の通り、大元の東京湾再生に向けた取組の中で施設の連携が必要と思う。ただ、メンバーはボトムアップで実際に運営に携わっている人、それが委員長の指摘の通り自治体が本来管理するもので、二重構造になっている。下からいくら連携しましょうと、自治体同士連携すすめてくださいと主張しても、東京湾全体の連携にはつながらない。東京湾再生推進会議のような全体を見ている協議体があれば、そこに議論の遡上にのせていただき、トップダウンで、「そういう取組が大切」と言っていただければ、何かしら出てくるのではないか。

具体例として、東京湾の環境一斉調査では自治体、民間、研究者がバラバラでやっていたことを一度集めてやりましょうという話を進めようとしたが、ボトムアップが難しかった。東京湾再生推



進会議の中にモニタリング研究会を作り、東京湾全体のモニタリングの在り方の議論を行い、そこからの提案を受ける形で、一斉調査やモニタリングポストを作った。国交省、海上保安庁もモニタリングポストを運営していく根拠であり、東京湾再生推進会議の行動計画に書かれたことに立脚していると思う。

窓PTの政策提案をきっかけに、どういうふうに各地の施設を使い、施設が持っているポテンシャルの重要なものとしての環境教育を東京湾再生に組み込むのかの投げかけをする提案と思う。その先の推進会議側でここまでやってくれというのは、行き過ぎで、大きな目標と、できることのメニューを自分たちに引き付けて書いたために、提案自体が自分たちの施設への支援の提案に見えてしまっている。なにか良いまとめ方の議論を継続して頂きたい。

(木村委員)

それぞれの施設の設置目的が邪魔をしていて、連携が図りづらいですか。

(芝原PT長)

設置目的は職員も理解し、他の施設の設置目的は尊重されるべきである。テーマや分野が違いますが、東京湾という中で生き残ってきた、あるいは設置されたという点で共通しており、もっとなぜ活用しないのかという思いがある。

(木村委員)

例えば、東京湾大感謝祭でも横浜で開催していれば、他の自治体はなかなか協力が難しい。広域連携の中でも連携が進まないといけない事例はいっぱいある。企画運営委員会があり、東京湾再生官民連携フォーラムがあり、少しでも連携が進んでいくようであれば一番の成果だと思う。何かうまく活性化していけばうれしい。

(來生委員長)

おっしゃる通りで、この場が横につながる契機になれば東京湾全体にとって好ましい。そういう形で政策提案がうまくまとまるように検討して頂ければと思う。

時間の関係上、継続して議論していくということをお願いする。

《報告事項》

(1) PT活動報告

①東京湾大感謝祭PT

【報告】(木村PT長)資料 2-1 を用いて説明

例年この時期にお願いしているが、出展社数が伸びず予算的にきびしい。みなさんにさらなるご協力をお願いします。

②東京湾環境モニタリング推進 PT

【報告】(古川PT長)資料 2-2 を用いて説明

本年も東京湾環境一斉調査を行う。水質調査の実施基準日は8月7日(水)、予備日は9月4日(水)。生物調査の実施期間は、7月から9月、環境啓発活動等のイベントの実施期間は、7月から9月。主催者は自治体、研究機関、民間、市民が協力をしている。これがもう少し広がるよう新たな取り組みを考え始めている。

③生きもの生息場づくりPT



【報告】(佐々木PT長)資料 2-3 を用いて説明

マコガレイの産卵場の底質改善の政策提案にマッチにした事業が行われたので報告する。千葉港三番瀬周辺の工事で砂が出てきたので、マコガレイ産卵場底質改善に有効活用した。今後これに関するモニタリングを実施する。東京都離島から発生する予定の土砂などの資源をスムーズに受け入れられる枠組みなどを検討していく。

④指標活用PT

【報告】(岡田PT長)資料 2-4 を用いて説明

市民データの収集は、フォーラム会員や多くの機関に協力して頂いている。今年度は東京湾再生行動計画中間評価がある。中間評価は9月に第一次原稿をまとめる予定になっており、PTも再生推進会議をサポートするので、良いものを作っていきます。

東京湾大感謝祭関連で、各PTからの出展、パネル展示をお願いする。

⑤江戸前ブランド育成PT

【報告】(事務局代理)資料 2-5 を用いて説明

水産関係者などが集まり、東京湾大感謝祭に向けて継続的に活動していく。大感謝祭での情報発信が柱となっている。今後は、大感謝祭以外での活動で、日常的にどう「江戸前」をPRしていくのかなどを検討し、引いては政策提案にもつなげていきたい

⑥東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT

【報告】(竹口PT長)資料 2-6 を用いて説明

本年度は政策提案(案)をしっかりとめるために活動する。

⑦東京湾での海水浴復活の方策検討 PT

【報告】(事務局代理)資料 2-7 を用いて説明

昨年度政策堤を行った。9月以降に政策提案のフォローを考えて行く。

⑧東京湾の窓PT

【報告】(芝原PT長) 資料 2-8 を用いて説明

政策提案(案)の作成とスタンプラリーの準備を並行して進めてきた。スタンプラリーは昨日(8/1)からスタートした。今年度は開催期間を拡大し、多くの方に参加していただく。また、共催に国土交通省関東地方整備局に入って頂いた。スタンプラリー参加施設は14。協賛に京浜急行に参加して頂いた。スタンプシートこれ自体が14の窓施設の紹介になっている。政策提案の検討を行っている最中で、スタンプラリー参加施設を通して市民と東京湾の結び付きを強調していく予定。

⑨東京湾浅瀬再生実験PT

【報告】(事務局代理)

川崎市とのコラボの中で、9月以降にPT会議を開催するという連絡を受けている。

(2) CSR-NPO 未来交流会 2019 開催報告



(事務局) 資料3を用いて説明

CSR-NPO 未来交流会 2019 を今年も開催した。日本プラスチック工業連盟から産業界としてプラスチックゴミ問題に関するプレゼンをして頂き、非常に有意義であった。資料最後に新聞記事がある。これで様子がわかると思う。

(3) 令和元年度企業・行政等施設見学会について

(事務局) 資料4を用いて説明

9月3日に川崎の工業地帯にある昭和電工プラスチックケミカルリサイクル工場見学を予定している。

(4) 令和元年度PT長会議について

(事務局) 資料5を用いて説明

8月28日(水)開催予定。議題は①政策提案について、②東京湾の日制定について、③PT未来クロスの実施について、を予定している。

(5) 東京湾クリーンアップ大作戦 2019 について

(事務局) 資料6を用いて説明

東京湾海ごみ・プラスチックごみの一斉清掃を「クリーンアップ大作戦」の旗印の下に、普段清掃活動をされている団体と連携して実施できないかを検討中である。これを基に「東京湾の日」制定機運を醸成して行く。

(6) 東京湾再生官民連携フォーラム令和元年度総会について

(事務局) 資料7を用いて説明

東京湾大感謝祭の開催に合せ、フォーラム会員を集めた総会を開催。日時は10月26日(土) 9:30～、場所は横浜開港記念会館を予定している。

(7) その他

「人と組織と環境をむすぶフォーラム in 東京」の紹介

5-3 閉会

委員長が閉会を宣言

以上